

のかまびすしき今日其必要を感じながらも、其實  
行にくるしむといふことはまへにも申して置きま  
したとうり、御同様に残念なことではありませぬ  
か、苦しも家庭で公徳心が眞にあつたならばか、  
悪風も社會より消去することが出来ましよう、  
公徳の念乏しき今の世大に之が養成に心を  
ちいになつて、此様な悪弊をみならばせぬ様に小  
兒のときからよいしつけをしてもらいたいのであ  
ります。

(未完)

貞一の日記(抜粹)  
承前(明治三十六年五月三十一日生男兒)

その母

明治卅八年一月廿三日。夕食前までは元氣よかり  
しが、夕食後臥床に入れしに、聊か發熱の模様  
あり。九時までは無事に眠る、九時過ぎて例の

通り葛湯を與へしに暫らくして嘔き、十分許り  
過ぎて多量に粥などを嘔き出す。其後は便通の  
氣味あるか如く、うん／＼いひ續け腹痛あるか  
の如くにも見らる、かくて熟睡せず、二度許り  
小量の水質の便通あり。  
午前七時起き午後七時眠る。食事四回。葛湯一  
回。  
今朝父上、學校の御用にて甲府へいらせらる。  
廿四日 元氣よし、間食はウエーファース二枚  
廿五日 夜に入りて熱あり、三十七度五分、咳出  
づ。間食は、ウエーファース四枚、ミレンジ二  
個。

二十六日 元氣なく下に臥すか母に抱かれたが  
る。但し食事は變らず、熱度卅八度八分、間食  
は前に同じ。六時半起き七時眠る、晝眠二時間。

二十七日 今日(こんにち)は元氣(げんき)よく歩き回(ま)はる。「か池(いけ)の蛙(かはづ)は」と歌(うた)へば「クワツクワツ」といふ事(こと)覺(おぼ)えた  
り。

三十日(にち) ウエーフワースを興(おた)へしより、惡(あ)しき  
僻(くせつ)付(つ)きて、いつも取(と)り出(だ)す戸棚(とだな)の前(まへ)に歩(あ)りて行(い)  
つて、エー〜といつては、ねだる。

今日(こんにち)は神田(かんだ)の小原先生(おぼせんせい)の許(もと)に行(ゆ)く。

卅(にち)一日(いちにち) 咳(せき)も餘程(よほど)少(すく)なくなり、元氣(げんき)よく歩(あ)き回(ま)  
はる。下(した)の奥齒(おくは)一枚(まい)見(み)え初(はじ)む。

二月(にがつ)一日(いちにち) 小原先生(おぼせんせい)の指(さ)しに從(したが)ひ、オート、ミール  
を緒口(ちやく)に半盃(はんばい)ほどこしらえ、之(これ)に牛乳(ぎゅうにゅう)を茶勺(さじ)に  
一盃(まい)交(ま)せて與(あた)へしに喜(よろこ)びて飲(の)む。牛乳(ぎゅうにゅう)の這入(はい)つ  
て居(ゐ)ることが分(わか)らぬと見(み)えたり。かくて、牛乳(ぎゅうにゅう)  
を飲(の)み慣(な)はせと仰(おほ)せられたるなり。食後(しょくご)障(さわり)なし。  
今日(こんにち)より食(しょく)事(じ)四回(よっかい)の中(なか)一回(いちかい)は、オートミールと

し、だんぐ牛乳(ぎゅうにゅう)の量(りやう)を増(ま)さんことを試(こ)むるこ  
とにせり。

三日(か) 「カーチャン」はどうしても言(い)はず、言(い)  
はせ様(やう)とすればたゞ「カー」とのみいふ。

四日(か) 今日(こんにち)始(はじ)めて、シー〜といつて小用(こよう)を  
教(おし)へ便器(べんき)を指(ゆび)さす、此後(このち)も大抵(たいてい)は教(おし)ふるようにな  
れり。

夜の葛湯(くづゆ)を廢(はい)す。消(しょう)化(くわ)思(し)はしからぬ様(やう)なれば。

五日(か) 今日(こんにち)より、前(まへ)の足利(あしがひ)幼稚園(えんぐわん)に務(つと)められ  
し安田(やすだ)さん(さん)に來(き)て貰(もら)ふ事(こと)となりたり。

午前(ごぜん)父(ちち)に抱(いだ)かれて、本郷(ほんごう)の或(ある)先生(せんせい)の家(いへ)に行(ゆ)く、  
途(と)中(ちゆう)犬(いぬ)を見(み)る毎(ごと)に、アツワ〜といふ。ワ  
ン〜の事(こと)なり。

六日(か) 「トースン」とい(い)はせ様(やう)とすると、「デウ  
ー」とい(い)ふ様(やう)にいふ。

七日 昨日も今日も便通なし。リスリン座薬  
を服用。

八日 父學校より歸れば大抵洋服を和服に着  
代へるを常とせるに、今日は其儘にして居らる  
ゝを見て、すたゝと椅子の上に置ける父の和  
服を引つ張り「エー」といつて父に迫る。

父は「ハイハイ」といつて着代へれば、足袋だの  
帯だの、つぎぐに渡す。

午前の中、沓を履きて、安田さんと金毘羅神社  
に遊び、午後一時間許り外に遊んで来る。

九日 何時の間にか「いや」といふ事覚え  
て氣に入らぬ事をいはれると、すぐ「いや」

と「いふ。」

十一日 午前中、安田さんに連れて貰つて、電  
車にて日比谷公園に遊ぶ。電車の中にて、乗合

の兵隊さんに悪戯けて切符など借りて遊ぶ。午  
後、父に抱かれて、上野公園に行き、凧車を見  
る。「シユツ、シユツ、シユツ」などいひて、何時  
までも見ようとする。「さあ、もう歸らう」とい  
ふと、すぐ、いやゝゝと足をもがく。

十二日 今日は日曜日にて天氣宜しければとて  
父と辨當持ちにて、電車にて四谷まで行き、父  
の友達石井さん所に行く、大きな猫あるを  
見て「ニヤン」といひて戯れ遊ぶ。伯母さ  
んに抱かれて、電車の玩具など買つて頂いて中  
々御機嫌なり。歸途日比谷公園に遊ぶ。電車を  
見る毎に乗らんとて騒ぐ。  
(以下次號)

